

スポーツを通じた交流が共生社会の実現にもたらす効果

代表者： 藤田さよ（リハビリテーション学部）

連携機関： 一般社団法人ASOBI 寺田美穂子, 株式会社リイ 瀧崎亮,
株式会社KidsDeveloper 八木唯斗, 小笠病院 杉野 匠, 鈴木泰樹, 齋藤想, 宮崎貴史

【はじめに】誰一人取り残されることのない共生社会の実現は医療福祉職である私たちにとって重要な課題であると考えている。一般社団法人ASOBIでは、スポーツや遊びを通じて共生社会を実現しようと取り組んでいる団体である。イベントには毎回数百名を超える多くの参加者がスポーツを通して同じ時間・場を共有することで、障害の有無や障害の違い、年齢の違い、国籍の違いを超えた交流を実現し、同じ場を共有し、共に時を過ごし、共に楽しむことで共生社会の実現への一助となっていると考えている。そこで今回、一般社団法人ASOBIが主催する活動への参加がもたらす心理的影響および共生社会の実現に繋がる影響について明らかにしたいと考えた。これらを明らかにすることは、共生社会の早期実現に向けた手がかりとなると考える。

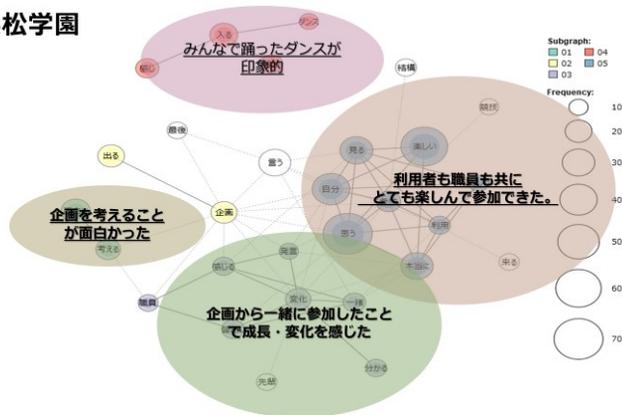
【目的】本研究の目的は一般社団法人ASOBIの企画・運営するイベントスタッフの心理的影響および共生社会の実現につながる効果があるかを明らかにすることである。

【研究方法】研究への同意の得られた対象者に半構成的インタビューを行った。インタビューの内容は、今まで参加したイベントの感想、意見、参加したことで生活上変化したと感じることなどについて尋ねた。所要時間は30分程度。インタビューの内容はICレコーダーにて録音、逐語録に起こし、その後テキストマイニング分析を行った。

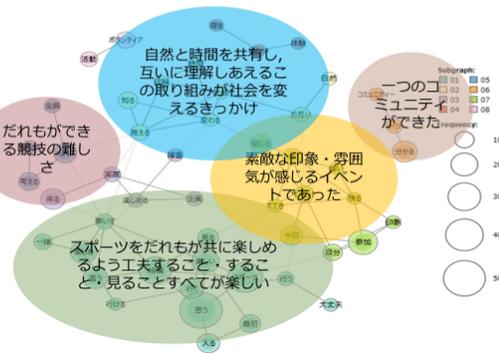
【結果および考察】研究対象者は

- ①浜松学園「まぜこぜスポーツマルシェ」のボランティア 利用者4名, 職員3名
- ②浜松学芸高校「まぜこぜスポーツマルシェ」のボランティア 高校生3名 教員1名.

浜松学園



学芸高校



- 若い知的障害のボランティア参加は、コミュニケーション力の向上、社会性の向上、自己効力感の向上など、成長につながり、新たな一歩を踏み出す機会となった。
- 高校生ボランティアにとって、障害者の理解、障害者とのコミュニケーションの促進、柔軟な対応力、共生社会に必要な要素の実感・学びとなり、これからの共生社会を創っていくリーダーとしての基盤を身に着ける機会となった。
- 一側面だけでなく、多方面からの、多くの方々の参画が、パワーとなり、加速度的に共生社会の実現を創り上げる原動力となっていると考える。
- 【地域連携の成果】今回の成果として一般社団法人ASOBIが主催する活動が共生社会の実現に向け寄与しており、また共生社会の実現に向け必要な要素について明らかにできた。